

坂田周一著

## 『社会福祉における 資源配分の研究』

評者：大谷 強

### 1 本書の特徴

ここで紹介する本書は、いろいろなところで非常に行き届いた配慮が見られる。まず、本文に入る前に置かれている「はじめに」の部分で、ご本人が立教大学出版会に提出された計画書が掲載され、私にもこの研究の概要をつかむことができた。これに対応するものとして、15ページにもわたる長文の「あとがき」がある。ここでは、学生時代からの個人的メモワールが記載されている。あわせて、なぜ、こうした研究を思いつくにいったか、なにを明らかにされようとしてこられたかなどが、細かに述べられている。

目次も実にいいに作られていて、それぞれの章や節の細かい小項目を読み取ることができる。しかも、巻末に10ページにも及ぶ「索引」が配置してある。読者が読み返してみたいと思う箇所を、すばやく適切に開くことができるように、深く配慮されている。もちろん、11ページに達する参考文献リストも学習者や研究者には有意義である。

### 2 本書の構成

著者によって、これだけ多くの配慮が行われているので、本書の紹介はきわめて難しい。直接に読んでいただくのが、最善である。しかし、

それでは紹介の役割は果たせない。著者の要約に導かれて研究の内容を見てみよう。研究は社会福祉における資源配分はいかに行われてきたかを明らかにすることである。これまでは、どちらかという、社会的ニーズにしたがった資源配分のあり方を研究する方法と、他方で、供給側に即した提供のあり方の分析という2つの方法があった。著者はこの需要供給の両面を統合的に分析する枠組みとして、「割当」の概念を活用している。

分析の対象は日本の1980年代から2000年までの期間においている。なぜこの期間かという、日本経済の高度成長が終わり、税金など政府部門における資源制約が顕著になった時期であるからという。いわゆる「右肩上がり」の経済成長が終焉したこの時期に、日本において、とくに財源の「割当」が中心課題に上ってきたからといえる。

こうした研究をどういった構成で論述しているか。第1章から簡単に説明する。まず、第1章では、資源制約が明確に顕在化した80年代前半をとりあげて、社会福祉論の中心課題として「割当」という概念を説明している。第2章は立法や行政など社会福祉供給制度の枠組みが説明されている。

こうした予備的考察を踏まえて、第3章では、日本における一般会計予算と社会福祉関係予算について、60年代から90年代にいたる長期的な動向が明らかにされている。第4章では、予算決定におよぼす政治的意思の形成について、国会議事録などを活用して日本の特質を明らかにしている。第5章は、予算決定のなかでも社会福祉への配分について時系列と80年代前半の構造分析が行われている。

第6章は、80年代半ばからの中央政府の財政危機に対する国庫負担金・補助金の削減の影響について、国から地方自治体への配分の変化と

して述べられている。その動きを受けて、第7章では、地域格差など地方自治体間での配分が、日本の交付税の仕組みと自治体での一般財源の投入という観点から取り上げられている。となると、つぎは自治体内部での配分問題が注目される。第8章は、高齢者保健福祉計画を初めとする障害者計画、子育て計画など90年代に展開された福祉計画が中心テーマとなる。ここでは、90年代の地方財政の変化率に主に着目した研究が述べられている。

第9章は、資源制約が明白になった80年代から広がった利用者負担と有料化が、普遍的社会福祉へのパラダイム転換というべきものとして取り上げられている。利用者負担や有料化が経済学の価格理論によって解明されている。最後の第10章は結論部分に相当する。ここでは、福祉基礎構造改革やコミュニティ中心主義、消費者主権と効率化など、20世紀末から21世紀にかけての重要課題が取り上げられている。

日本の80年代からの現実政策に関する歴史的叙述のなかに理論的解明が取り入れられており、この組み合わせが見事である。80年代からの変化がきわめて急激であった日本の社会福祉政策の展開を論理的にも整理してあり、短期的視野に陥りがちな私には実に役に立つ叙述である。

また、現実の社会福祉政策の動きに関して、とりあげられている事項も漏れるところがなく、目配りよくデータ分析や図表を活用して分かりやすく書かれている。すぐに結論や法則性を求める短気な私には、だから結論や政策判断はどうかといたくなかった。しかし、実際の現実はその単純に割り切れるものではないと温厚な著者は、ていねいに叙述している。

### 3 現在の政策確立と本書の意義

著者も第10章の末尾に述べているように、障害者福祉への支援費制度が、私にとってもい

まもっとも大きな課題である。とともに、急速に進行した少子高齢社会が現実の政策に大きな影響を及ぼすにいたっている。年金制度や老人保健法など高齢者医療制度も、その影響を受け止めかねている。

介護保険においても予想を上回る要介護認定者の出現である。高齢者福祉保健施策も必要性は高まっている。介護保険保険料の引き上げも必要になっている。障害者についての支援費制度はスタートして1年で財源不足となっている。子育ての支援もいっそう重要になっている。新自由主義経済政策によって、脱落や孤立などをはじめ社会的排除をうけている人々が増大している。一方で、経済状態はデフレが進行している。経済情勢は改善しつつあるとはいうものの、雇用増大なき企業業績の回復に止まっている。地域における支援を必要とする人々のニーズは急速に増大している。

地方分権が重要であるが、自治体の財源は90年代よりも厳しくなっている。中央集権時代よりも自治体間の格差は拡大しているとの印象がある。自治体内部での財源の配分については、中央政府と比べて福祉政策への配分が厳しいという面もある。80年代からの分析の結果により明らかになった法則性を基礎にして、この時期は、どんな政策が必要であるか、著者のご意見をぜひお聞きしたい。

### 4 当事者本位の福祉政策への視座

本書の最後に「あとがき」の最終部分で著者自身が書かれているように、政策に当事者主体や当事者主権という「ニーズサイド」の要素が最近、強調されている。措置から契約への転換を盛り込んだ社会福祉法の制定や介護保険法の実施、障害者への支援費制度なども、利用者本位の制度といわれる。こうした利用者の参加が重視されることによって、この理論はどう変わるだろうか。理論そのものは、影響ないであら

う。しかし、現実の福祉政策はどういう形で形成されるだろうか。

財源や社会福祉制度・行政側に着目したこの理論分析は、当事者主体の側からみて、どう位置づけることができるのであろうか。ぜひ、著者のご意見をお伺いしたい。

とくに、地方分権のもとで、その地域に暮らしている人同士の合意形成をどう考え、創りだしていけばよいか、悩んでいる私にとっては、ヒントが欲しい。財源の厳しい制約のもとで、住民主体による地域福祉計画をどう具体的に実現していくのか、大きな課題でもある。そこでは、国・地方を含めて財源の再配分が必要になるであろう。土木建設予算や商工業新興の予算、

スポーツ・文化予算など、福祉政策の枠を超える活用も求められるであろう。サービス提供主体も行政や公益法人はもとより、民間企業やNPOなど市民による自主的な事業も、関係するであろう。

この本は、80年代からの日本の社会福祉政策を忠実にフォローする作業によって、さらに現在の政策のあり方や今後の合意形成に関して、さまざまな議論をまき起こす問いかけを内包している。

(坂田周一著『社会福祉における資源配分の研究』立教大学出版会、2003年3月、viii + 226頁、定価3800円 + 税)

(おおたに・つとむ 関西学院大学経済学部教授)

法律文化社 〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71\* 価格は定価(税込)  
☎075(791)7131 FAX075(721)8400 http://www.hou-bun.co.jp/

# 新しい社会政策の構想

社会政策学会編 ● 20世紀的前提を問う「社会政策学会誌第11号」 ● 2730円

▼ 共通論題 || 新しい社会政策の構想 | 20世紀的前提を問う

卓越・正義・租税…………… 川本隆史

ベーシック・インカム構想と新しい社会政策の可能性…………… 小沢修司

労働の未来…………… 田中洋子

「男性稼ぎ主」型から脱却できるか…………… 大沢真理

「新しい社会政策の構想」に寄せて…………… 武川正吾

▼ テーマ別分科会 || 報告論文

中国における基本医療保険制度の形成とその実態…………… 干 洋

高齢者介護倫理のパラダイム転換と…………… 春日キスヨ

ケア労働、ジェンダー…………… 河野 真

高齢者ケアのウェルフェアミックス…………… 李 惠辰

金大中政府の「生産的福祉」…………… 鄭 鎮星

金大中政府の女性政策…………… 鄭 鎮星

▼ 投稿論文

新自由主義と福祉政策…………… 金 成垣

産業と労働のニューストーリー ● 久野国夫編 ● 2625円

● IT・グローバル化と仕事の未来 IT革命が雇用構造に与えた影響を検証し、ワールドワークをもとに21世紀型モノづくりを提起。

社会保障の基本原則と将来像 ● 芝田英昭編著 ● 2415円

社会保障の原理を歴史から問い直し、国民的立場から考え方とその財見通しを示す。年金改革政府案にも論及。運動の指針として最適。

欧米のホームレス問題 ● 中村健吾ほか編著 ● 4725円(税別)4410円

● (上)実態と政策 (下)支援の実例 各国の事情に即した独自の支援策を紹介する。多様な考え方、形態から日本の施策のあり方を考える。